

1. 略歴

1989 年 3 月	東京大学文学部国語学専修課程卒業
1991 年 3 月	東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専攻修士課程修了
1993 年 3 月	東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専攻博士課程中退
1993 年 4 月	明海大学外国語学部日本語学科専任講師（～1996 年 3 月）
1996 年 4 月	茨城大学人文学部人文学科専任講師（～1997 年 9 月）
1997 年 10 月	茨城大学人文学部人文学科助教授（～2003 年 3 月）
2003 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部助教授
2007 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部准教授
2018 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授（～現在に至る）

2. 主な研究活動

a 専門分野

国語学

b 研究課題

日本語音韻史・日本漢字音史・日本韻学史を、主な専門領域とする。古代日本における外国語研究の二本の柱、すなわち漢字音韻学（中国語学）・悉曇学（梵語学）の学史的研究を、主要な研究領域とする。先人の残したさまざまな記録を元に、江戸時代以前の日本における、音声観察・音声分類の発達および変遷を解明することを目指す。これらの研究成果と連動させつつ、漢字音の日本化の問題、拗音分布の偏在性についての歴史的解釈、濁音の起源（連濁現象の起源）についての考察など、音韻史分野にも研究対象を拡張し、着実に成果を上げている。近年の課題としては、国語音・漢字音（呉音系字音、漢音系字音、唐音系字音）・梵語音を総合する、日本語音節バリエーションの歴史を明らかにすることを目指している。

c 概要と自己評価

著書『日本語音節構造史の研究』は、肥爪の数十年來の業績のうち、日本語の音節構造の歴史に関わるものを集大成した研究書である。第一部 拗音論、第二部 二重母音・長母音論、第三部 撥音・促音論、第四部 清濁論 という構成になっており、日本語の音節構造に関わる主要なポイントを網羅し、それぞれに独自の新たな知見を提示している。

論文「サ行拗音—開拗音と合拗音のあわい—」においては、開拗音の中でも特異なふるまいをするサ行（ザ行）開拗音と、早々に日本語の音韻体系から弾き出されてしまったカ行（ガ行）合拗音とが、平安時代には、以外に通じ合う性質を持っていることを指摘した。それが、カ行合拗音が〈あきま〉に取り込む形で、当初から一単位で受容されたのに対し、サ行開拗音は、古代日本語のサ行子音の音価の特異性から、他の開拗音と同様に分割した二単位での受容と平行して、（現代語のような）一単位での受容も行われていたため、その一単位性が、共通のふるまいのベースとなったとする仮説を提唱した。

論文「上代語における文節境界の濁音化」においては、通常は「連濁」が起こることはない考えられている、文節境界においても濁音化が起こっていた可能性を、上代語資料から考察した。いくつかの候補となる事例を指摘し、そもそも「連濁」とはいかなる現象であったのか、「一語化」という基準そのものが歴史的に変化するのではないか等々、議論の前提となる概念の再検討を迫った。

論文「悉曇学者行智の江戸語音声観察—タ行音の場合—」においては、まず古代中国語の発音を復元し、それにより音訳漢字を読むことによって、インド本来の発音を得ようとした、江戸時代のユニークな悉曇学者・行智の、江戸語タ行音の音声観察について、紹介・分析した。行智の緻密な音声観察が、梵字の 39 種の子音を発音し分けるという、悉曇学上の必要から生じたものであったことを指摘した。

文献資料の調査と理論的な考察の双方を、バランスよく進めてゆくことを目指す方針が、順調に推し進められたと考える。特に今期は、これらの成果を単著『日本語音節構造史の研究』として刊行し、同書により、第 38 回新村出賞を受賞した。今後、同書に収められなかった悉曇学関係の論考をまとめていくと同時に、社寺における文献資料の調査を継続的に進め、その成果を順次公開していくことを目指したい。

d 主要業績

(1) 著書

肥爪周二、『日本語音節構造史の研究』、汲古書院、2019.1

(2) 論文

肥爪周二、「サ行拗音―開拗音と合拗音のあわい―」（韓国語）、『口訣研究』、2018.9

肥爪周二、「上代語における文節境界の濁音化」、『歴史言語学の射程』、2018.11

肥爪周二、「悉曇学者行智の江戸語音声観察―タ行音の場合―」、『近代語研究』、2019.9

(3) 学会発表

肥爪周二、「日本語音節構造史の研究」、国語研究室会、2018.7.14

(4) 受賞

国内、肥爪周二、新村出賞、新村出記念財団、2019.11.23

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、國學院大學、「日本語音韻史研究」、2018.4～2020.3

(2) 学会

国内、訓点語学会、運営委員・編輯主任、2018.4～2019.3、編輯主任、2019.4～2020.3

国内、日本語学会、評議員、2018.4～2020.3、選挙管理委員長、2020.1～2020.3